（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関やロッカーに理念を貼り、再確認出来るようにしている。 ・どんな事が出来るか、職員会で話し合いの場を設けている。	契約時に本人や家族に理念を説明している。玄関や事務所に掲示しパンフレットにも明記しており、外部の人にもホームのあり方を示している。一人ひとりのケアについて検討する際には理念を意識しながら具体的に話し合っている。法人理念を基に開設時に全職員で話し合って作成したホーム理念は利用者を支え続けている職員の指針となっている。職員が変わってきていることや様々なニーズへの対応が必要なことから状況に合わせた新しい理念にしたいとの意向がある。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・日常的ではないが、地域の行事に参加したり、中学生、大学生、看護学生の実習を受け入れている。	区費を納め、地区行事の夏祭り、掃除、草取りなどの奉仕活動にも参加している。ケーナ等の楽器演奏、手話、コーラス、唱歌や踊りなどのボランティアが来訪し、ホームの夏祭り、花火大会にも地域住民をお誘いしている。夏休みになると高校生のボランティアが来訪している。地区内11の介護事業団体主催の「アモーレフェスタ11/2」にホームも参加し催しを盛り上げた。近所の理髪店は柿や花を、印刷屋さんは紙や布などを持参し、商売抜きで長年の親しい交流が続いている。地区の防災訓練にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の行事や安茂里地区介護保険事業所として参加し、マップを作り事業所を知ってもらったり、介護予防教室を開いている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・二ヶ月に一度、会議にて事業所の報告をし、質問や意見を聞き地域の理解を深めて頂いている。ホームでの行事（11月）にも参加して頂く予定。	奇数月の第3金曜日に家族会会長、区長、民生児童委員、地元2地区住民（4名）、市担当職員、地域包括支援センター職員の出席を得て開催している。ホームから運営や利用状況、活動などを報告し、委員から質問を受けたり、意見や提案をいただいている。災害訓練は火災だけでなく水害訓練も必要との助言をいただき、水害については消防署員と相談しマニュアルを見直し避難先を修正した。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・推進会議や認定調査の際、市の職員と話をしたり、会議のお願いに出向いたり、事故報告に出向いている。 ・安心相談員さん、毎月来所され、交流を楽しみにされている。	市主催の法令に関する説明会や介護保険、感染症予防等の研修会案内などがFAXで届いている。何か問題が生じた時には市の担当者に相談すると何時も親身に対応していただいている。毎月、安茂里地区介護保険事業所会議に出席し、地域の独り暮らしの高齢者の支援方法などについて話し合っている。市のあんしん相談員が毎月訪問し、季節の写真を見せたりして利用者と話している。更新申請については家族の依頼で代行している。認定調査員の来訪時には家族が同席することもあるが本人の様子を伝えている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員は身体拘束をしないケアは、理解しているが玄関は、家族の理解の上で施錠している。抑圧感のない自由なくらしをつくるためには、家族の理解が不可欠なため関係づくりに努めている。	外出傾向の方がいたり、2ユニット共通の玄関が各ユニットから死角になっていることを含め家族会で説明し、承諾を得てから玄関の施錠を行っている。外出したい様子があれば一緒に外出したり、ユニット間を行き来することで気分転換を図っている。身体拘束に関するマニュアルがあり研修では事例検討し、拘束や行動制限の内容、それに伴う弊害も学んでいる。利用者一人ひとりが自由で居心地よく暮せる環境づくりに努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	不適切なケアや言葉による虐待がないように心掛けたり、お互い職員の言葉掛けに耳を傾けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員の勉強は不十分、成年後見人の存在が本人の権利を守ることになることを理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関しては、重度化したり看取りについては、説明し同意を得ている。また、状況が変わった際は、解約もあること説明している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会では、担当職員とケアプランの確認、意見交換、また、苦情箱を設置していることも説明している。	利用者の7割が口頭で要望を伝えることが出来る。約3割の利用者も職員の問いかけの工夫（複数選択肢）で表せている。外出や食事などの要望は日々の暮らしに反映させている。家族会は6月に父の日・母の日として開催し、総会後は利用者、家族、職員間で交流しながら食事を楽しんでいる。毎月担当職員から本人の健康や生活の様子を家族に手紙で伝えている。家族からも細かく生活記録が報告されるのでありがたいと喜ばれている。ホーム便りは隔月発行で行事や暮らしの様子等を写真入りで紹介している。苦情箱の活用はなく、家族等は来訪時に直接、口頭で伝えている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員の意見箱あり、職員会にて意見や提案を聞き、検討している。	職員会議は毎月第1火曜日に行っている。職員はユニット固定ではないので職員会議には全員参加し、介護計画、行事予定や実施行事の反省、時期に合わせた研修や伝達研修、運営推進会議や利用者家族の意見要望などの議題に沿って検討している。職員は自分の考えを伝えたり提案したりと活発に意見交換している。日々の中で案件が生じた場合は職員会議を待たずにその日の勤務者で検討し、決定事項は連絡ノートに記載し周知されている。法人からの連絡等もその都度、連絡ノートで職員に周知されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の質の向上に向け、研修への働きかけ、内部研修を行っている。 ・管理者は、職員一人ひとりと面接を行い、意見を聞く場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・働きやすい環境作りや勤務表作り、また、資格取得に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・安茂里地区介護事業所会議、グループホーム会議、善光寺ネットワーク会議に参加し、交流しサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面説を通し不安を取り除けるよう、情報を頂きながら受け入れる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや、思いを受け止め、事業所で出来る事を提案し、安心して頂けるよう事前に話の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の状況を確認しサービス導入前に、本人に職員が会いに行ったり、来て頂き利用者様と関わりを持ってもらうこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の思いや悩みに耳を傾け、相談にのったり、テレビを見ながら昔話をしたり、一緒におはぎ作り等をして、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が来られた時は、日頃の状況を詳しく伝えている。また、毎月の生活記録で知らせている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・昔ながらの友人が来られた際は、また来て頂けるよう声を掛けている。 ・入所前からの美容院へ行かれる方もいる。	近所の人や友人の来訪を受ける利用者もいるが身内、兄弟、親戚の来訪が多い。子供からの手紙が届くこともあり、電話もまれにある。毎年出かけている戦没者の慰霊祭が行われる靖国神社に今年も車椅子持参で出かけている方もいる。親族が集るお盆に外泊や外出で自宅に戻る方も複数いる。家族と一緒に馴染の美容室へ出掛ける方、商店への買い物や食事に出かける方もいる。開設時からの職員は約4割おり、利用者との顔馴染みの関係が育まれている。利用者が「どこにいた～。ちっとも来なかったね」と職員に尋ねることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・あさま・しなの合同での場を設けたり、利用者の良いところを認め合ったり、皆で楽しめるものを促している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・同法人内へ退所された方には、機会をつくり面会に行っている。また他の事業所に行かれた方にも依頼があれば、情報提供している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で、本人が望んでいる事に耳を傾けたり、ケアプラン作成の際「本人の意向」を検討したりしている。	職員は日々利用者に関わる際に表情やふと洩らす言葉、行動などに関心を払い意向の把握に努めている。食べたい物を聞いて献立や外食に活かしたり、入浴の希望を確認してから浴室へ案内している。要望や意向を伝えられない利用者には日頃の様子や家族等からの情報、生活暦などを参考に本人本位に検討している。夜間にソッと話しかけてくる利用者もいるのでそんな時は居室でユックリと話しを聞くようにしている。大勢の中では言わないが一対一になると本心を語る利用者もいるので職員はそんな時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族より入所時、話を聞いたり、前の事業所の方や近所の方、友人の面会の際、情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの心身状態や、生活リズムを把握し、その方に添った介護に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入所時、本人、家族の意向、思いを聞き、反映した介護計画を作成、3ヶ月ごとにカンファレンスを行っている。	介護サービス計画は本人や家族の意向を基に能力に応じ自立した日常生活が営めるように本人に関わる職員が協議し計画作成担当者が目標を立て、それに沿ったサービス内容を書き込み完成させている。本人や家族への説明は基本的には計画作成担当者か担当が説明し、同意を得ている。評価見直しは概ね3ヶ月毎に行い、継続または実施状況等を評価表に記載している。計画の実施状況を確認し、問題が生じれば一部修正、または現状に即したものに作り変え、変更の理由を含め家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に基づいて、掃除、排泄、作業等を実践、記録を個々に記入し、次回の介護計画に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の希望があれば、家族の了解にて買い物 ・他科受診に於いて家族の状況に合わせて送迎を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近所の床屋さんを利用したり、外出の際、ボランティアさんの力を借りている。 ・安茂里地区の祭典にも参加したり、スーパー等の買い物にも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・全員往診が月一回、一人往診が一回あり、訪看さんにも週一度診て頂き、緊急時は、追加で受診でき、安心して生活が送れる。 ・皮膚科、歯科、眼科等、家族の協力にて受診されている。	協力医はこの4月から1回につき一人の利用者を往診し、18名の利用者は月に一回往診を受けている。状態異常の方がいればその利用者も診察している。年一回胸部写真、心電図,、血液検査を行い、異常の早期発見と健康管理が行われている。訪問看護が週一回あり、利用者の健康状態の確認や職員の相談に乗っている。外部受診には家族または職員が付添い、協力医からの紹介状を持って受診している。緊急の場合には同じ法人内のクリニックの医師と協力病院との連携により適切な医療が受けられるような態勢が出来ている。訪問看護と医療連携により24時間365日の連絡体制が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調変化のある時は、夜間、休日とも訪看さんと随時、連絡を取り対応している。 ・週一回は、訪問していただき、管理、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会はこまめに行き、病院関係者より情報をもらったり、地域連携室とも連絡を取り合いながら家族とも相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時、契約の際、重度化したり、病気になった際の対応は十分に話し、理解の上、契約している。 ・看取りは今までないが、本人や家族の意向を確認している。	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を本人、家族に説明し、「利用者の状態が重度化した場合における対応について」の同意書も取り交わしている。これまでに看取りの事例はないが病気の進行のため医療機関に搬送され治療を受けている方、身体機能の低下にともない重度化したが特養入所の順番が来て退居した例もある。老人保健施設の看護師による看取りに関する研究発表を聴講し家族の受容やケアの知識について学んでいる。前年度の目標課題に掲げたこの項目について全職員で出来ることを話し合い、家族のように利用者に喜んでもらえる方法を模索している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応は、職員会議等で確認している。 ・地区の防災訓練にて救急法の訓練を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の防災訓練を行っている。その際、消火器の使い方を定期的に確認している。 ・地域の防災訓練にも参加している。	消防署の協力の下、夜間想定の防災訓練を行っている。車椅子の利用者も参加し職員の誘導を受けながら避難している。職員は通報訓練や消火器による消火訓練も行っている。消防署の立ち入り検査も受けている。11月に昼間想定の防災訓練が予定されている。火災報知機、通報装置、スプリンクラー等防火設備も整い、夜勤者は火元確認や火元別の避難経路を予測するなど利用者の安心安全のために取り組んでいる。水害時の訓練や具体的な対策に関しては消防署員と相談しマニュアルにある避難先を変更している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりを尊重した言葉掛け、慣れ合いにならないよう、時々確認し合っている。 ・訴えや悩みがある時は、しっかり向き合い、対応している。	利用者一人ひとりの気持ちや暮らしぶり、尊厳や人権を大切にしながら日々、取り組んでいる。利用者は名前や苗字に「さん」をつけて声がけされている。排泄や入浴支援時は特にプライドやプライバシーに配慮している。重要事項の運営方針に「お年寄りの人権を尊重し、お年寄りの立場に立った利用者本位のケアサービスに努め、豊かな老後を目指します」との記述があり全職員で共有し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・こちらの思いを通すのでなく、いろいろな場面で選択していただいている。（レク、食事、外出、場所、服装）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせたり、その日にやりたい事等を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・整容にも一人ひとり声を掛け促したり、外出の際は、自分で服を選んだり、化粧される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事作りに少しづつ関わり、調理、盛り付け、食器洗いと意欲と大切にしながら行っている。	食事の準備は利用者の出来る範囲（料理の下ごしらえ、味見、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなど）で職員と一緒に行っている。食事の前には嚥下体操をし口腔機能の低下予防に努めている。食事形態は利用者の嚥下等の状態により食べやすく飲み込みやすく工夫し、摂取量が少ない場合は補助食品で補うこともある。食材は利用者と買い出しに行くこともあるが法人指定業者が配達している。食事は皆でテーブルを囲み今年最後のプチトマトが1つずつサラダについたこと、味付け御飯がとても上手に出来たことなど、会話も楽しみながら和やかに食べていた。献立は法人の管理栄養士が作成している。誕生日などの行事の場合には特別メニューになる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりに合った食事量、形態 ・苦手な物は、別の物で対応 ・毎月、体重をチェックし、摂取量の少ない方には、高カロリー食品を出すこともある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自立の方にも仕上げ介助し、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。（舌ブラシ、歯間ブラシ）		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を利用し、トイレ誘導し、出来るだけ下着汚染、パット汚染を少なくするよう心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄リズムや仕草、習慣を職員は把握しており、様子を見ながらトイレへの声がけや誘導をしている。利用者はリハビリパンツや布パンツを着用し、トイレで排泄している。夜間の排泄支援は自分で起きてくる方もいるが手元の鈴を鳴らしてトイレを知らせる方もおり、一人ひとりに対応している。トイレは車椅子対応可能で広めである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給、毎日の牛乳摂取、週一回おやつにヨーグルト、食物繊維を取り入れる工夫 ・運動も毎日歩行やブロック昇降を促している。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・1日3人、週2回、個浴で入っている。拒否がある時は変えたり、外出する予定がある時は交換し、無理なく入っていただいている。	脱衣所はエアコンで温度調節されている。ユニットバスに全身シャワー浴機も設置されている。お風呂は毎日準備されており、毎日の入浴も可能であるが本人に希望を聞きながら最低週2回入浴支援している。汗を掻いたり、身体が汚れた時は急きょシャワー浴することもある。入浴を拒む利用者はいるが時間を置いたり人を替えることで入浴できている。菖蒲湯、柚子湯、入浴剤などで楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・空調、寝具の調整、パジャマ更衣等、安眠の支援をしている。 ・昼寝をしない方は、自分の好きな事をして過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋をそれぞれのチャートに添付し、いつでも目が通せる ・誤薬がないように、服薬マニュアルを作っている。処方が変わった際は、服薬ノートで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎日の掃除には、役割があり、無理なく取り組んでいる。 ・レク、作業、家事は、無理なく楽しみながら参加出来るよう支援している。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その日の希望は、難しいが、家族の協力にて外食等楽しまれている。」 ・日曜日や買い物のある時は、ホームの車で一緒にドライブして気分転換している。	行事外出を計画しご家族にも声を掛けて一緒に出かけている。春はお花見、夏は七夕見学、秋は紅葉狩りなど四季折々楽しんでいる。善光寺参りや近隣の名所旧跡、公園などへドライブがてら出かけ、利用者に喜ばれている。日常的には敷地内や周辺を散策し、個人で買いたい物が有ればホームの軽自動車で出かけている。馴染みの床屋さんには徒歩で出掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人が管理はしていないが、それぞれお小遣いを預かり、個人の物は、そこから支払っている。 ・希望があれば、買い物に一緒に行き、支払うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族からの電話は、時間問わず取次ぎ、本人の希望があれば、事務所にてかけることも出来る。		
52	(19)	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節や行事に合わせて入居者と作っている。 　気に入った物は、居室や居室入口に貼っている。 ・温度、湿度の調節、空気の入れ替え、冬期は、ミスティーｶﾞｰﾃﾞﾝ使用している。	玄関を入るとユニットの玄関扉があり入口には当日の勤務者の顔写真が掲示されている。ユニット間は廊下でつながっており誰でも自由に行き来することができる。屋内は全てバリアフリーとなっているので歩き易く、車椅子でも移動しやすい。日中の多くの時間を過ごす居間兼食堂は温度調節されており、ソファーに腰を下ろしてテレビを見たり、談笑したり、ガラス戸の向うに見える空き地や住宅、少し色づいた木々、澄み切った秋の空などを眺めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自分の好きな物を飾ったり、置いたり居心地良い環境作り ・入居者同士で行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込む事で、居心地良く過ごせる方もいれば、何もないことが落ち着く方も居る為、利用者に合わせて工夫している。	居室にはベッドとクローゼットが設置されている。本人が新しい環境で元気に過してほしいと願い、家族が持たせた品々が持ち込まれている。寝具や馴染みの家具、テレビ、大事にしていた家族の写真、沢山の衣装、誕生カードにお祝いの花束や縫いぐるみなどが持ち込まれている。持物が多い少いに関係なく本人が安らげ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレの場所の提示、転倒なく安全に過ごして頂く為に、ドアや布団に鈴を付けたり、センサーを使用している。		